

麦づくり情報(No.3修正)



1. 麦作況情報田の生育概況(2月7日現在)

1) 調査結果(2月7日調査)

場所	品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈葉数 (L)	葉色	概況
牛 津	サチホゴールド 4条播き	本年値	12/10	16.9	901	6.2	-	◎農試平年値と比較する。 (昨年値はカモ食害の影響があったため) 草丈は平年より高い。(176%) 茎数は平年より多い。(214%) 葉令からみた生育は平年より早い。
		昨年値	12/14	(11.0)	(283)	(4.5)	-	
		農試本年値	12/10	17.8	891	5.3	-	
		農試平年値	12/10	10.1	417	4.3	-	
大 和	シロガネコムギ 8条播き	本年値	11/21	(21.6)	(207)	(8.0)	40.8	※調査区は鳥害の影響あり。葉色は調査区外を測定。 ◎農試データの生育から 草丈は平年より高い。(165%) 茎数は平年より多い。(134%) 葉令からみた生育は平年より早い。
		平年値	11/29	12.4	535	4.9	-	
		農試本年値	11/20	28.7	796	6.2	-	
		農試平年値	11/20	17.4	592	5.9	-	

※農試本年値、平年値は作況の2月10日調査データを記載

1月5半旬～2月2半旬の気象状況は以下の通り。

平均気温 8.2℃ (平年+2.7℃)、降水量 90 mm (平年比 234%)、日照時間 80.2 時間 (平年比 84%)と、平年より高温で降水量が多く、曇天が続いている。

小麦で11月中下旬播種した圃場では、葉齢が7～8葉期を迎えており、すでに幼穂が形成されている圃場もある。茎立ち期は、高温と多雨により平年より2週間ほど早い2月上旬～中旬にかけて迎える予測である。そのため、麦踏や土入れなどの管理が遅れないよう注意が必要である。

大麦で12月上中旬播種した圃場では、現在5～6葉期を迎えており、茎立ち期を迎えつつある。小麦同様に大麦の生育も早まっているため、生育状況に合わせた管理を行う。また一部の圃場では、下葉に大麦網斑病がの発生がみられている。

2. 今後の管理

○穂肥施用について

平年より早く生育が進んでいるため、小麦の穂肥の施用にあたっては暦の2月下旬～3月上旬より遅れないように施用する。茎立ち期(右下図の時期)を過ぎている圃場では、麦踏みを行いながらの施肥は避け、動力散粒機やブロードキャスター等で散布する。ただし、大豆後圃場の小麦の場合、施肥量は地区こよみに準ずる。大麦は、穂肥の施用時期が3月上旬となっているが、播種時期によるバラつきがあるため、生育に合わせて施用する。

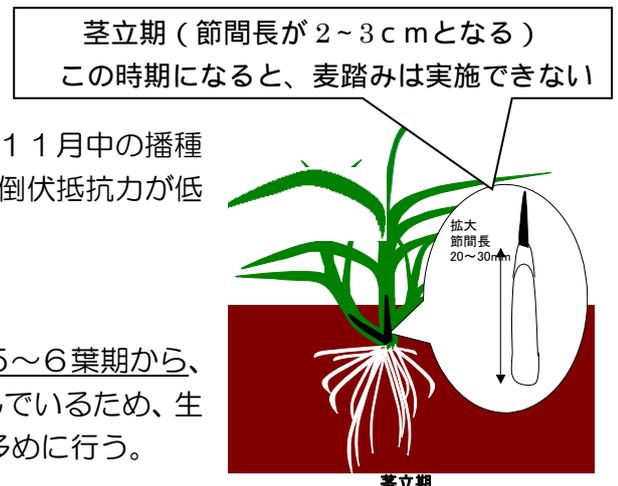
○麦踏み・土入れ

① 麦踏み 必ず土壌が乾燥した状態で!

12月下旬以降に播種した圃場は麦踏み可能な圃場が多いが、11月中の播種で茎立ち期を迎えた圃場では、初期分けつ茎が折れ、穂数の減少や倒伏抵抗力が低下することがあるため実施しない。

② 土入れ 肥効を高めるため穂肥後にも実施!

雑草防除や排水対策、遅霜による寒害防止にもなるため、本葉5～6葉期から、圃場の条件をみながら計画的に実施する。今年は早く生育が進んでいるため、生育量が多い圃場では過剰な分けつ抑制するため、土入れの量を多めに行う。



○病害虫防除

大麦で発生する網斑病は、多発すると倒伏や減収、粒の品質低下を引き起こす。

現在、一部の圃場で網斑病の発生がみられ始めている(右写真)。発生株が散見され上位葉に進展してしまうと出穂後の登熟に影響し、粒の充実低下につながる。若い葉で確認された場合は、直ちに網斑病対策としてチルト乳剤で防除する。



※網斑病が発生した大麦の様子
網目状の茶色い病斑ができ、周縁部は黄化している。

○雑草対策

1月5半旬～6半旬が高温多雨であったため、雑草の発生も多くなっている。雑草の発生が見られる圃場では、土入れとあわせて除草剤の処理時期を逸さないように早めに茎葉処理剤を施用する。

【注意事項】

麦踏み：麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

土入れ：除草剤散布直後に行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

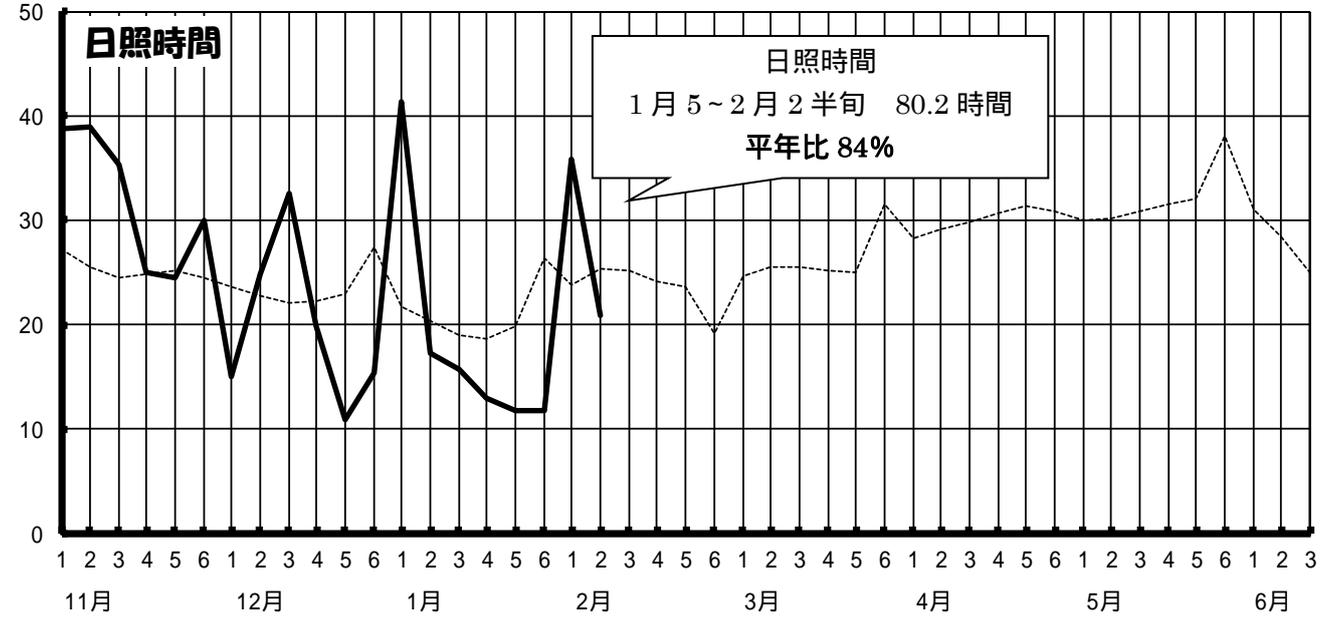
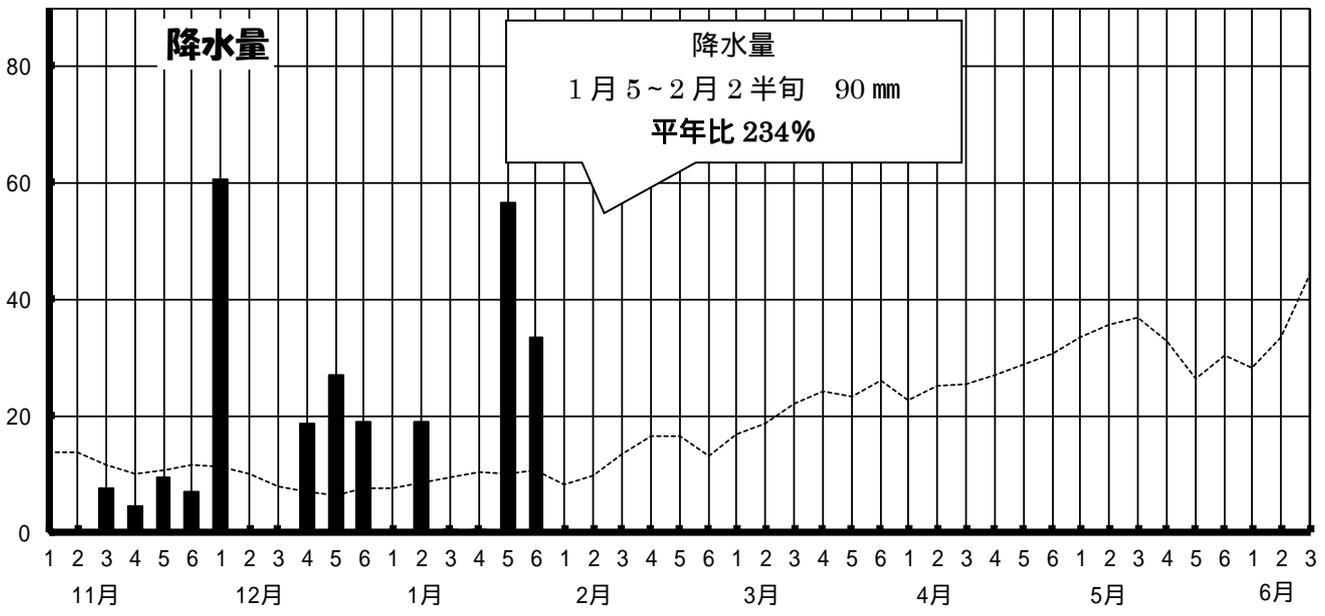
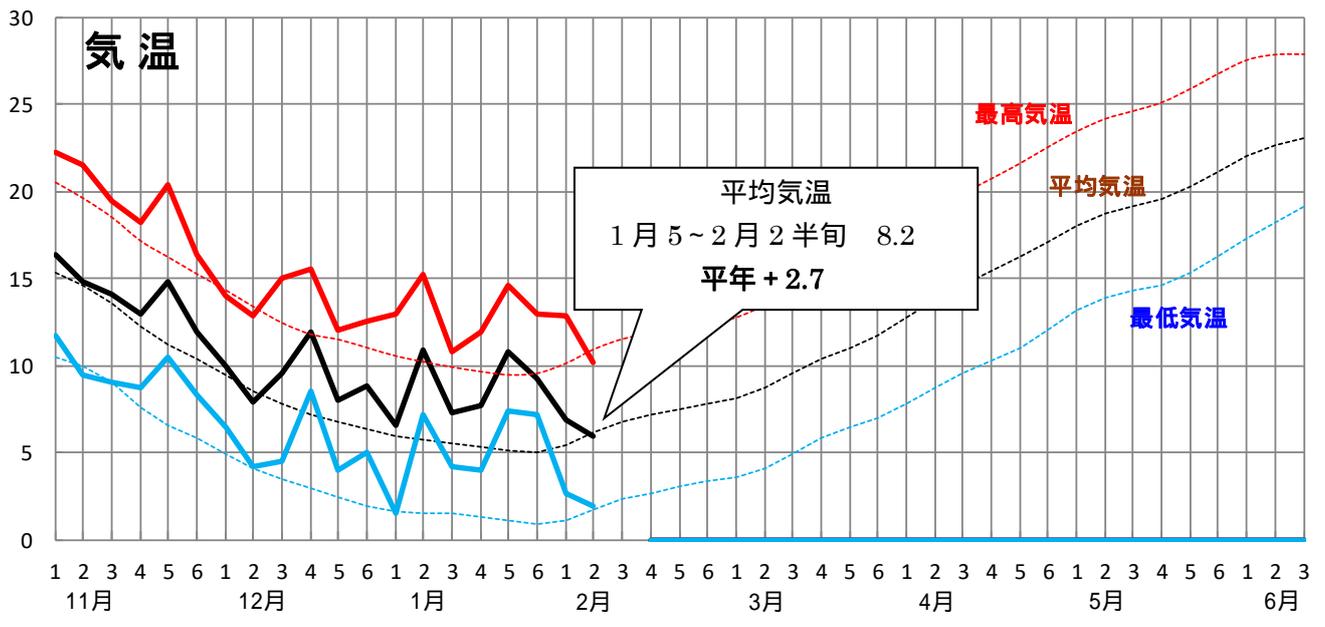
農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー75DF水和剤	1年生広葉雑草 スズメノカタビラ カブノボクサ	5～10g	100L	は種後～節間伸長前 (スズメノカタビラ5葉期まで) (カブノボクサ1～3葉期まで) ※小麦のみ は種後～穂ばらみ期まで 但し収穫45日前まで	1回以内	・カブノボクサには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する
アクチノール乳剤	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml	70～100L	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内	・展着剤は使用しない ・ヤエムグラ、カラスノエンドウ、タデ類に効果が高い
エコパートフロアブル※	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	50～100ml	100L	節間伸長開始期まで (広葉2～4葉期) (ヤエムグラ2～6節期) ただし収穫45日前まで	2回以内	・薬害が出やすい ・ヤエムグラに効果が高い
バサグラン液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml	70～100L	生育期(雑草3～4葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前まで	1回以内	

○排水対策

湿害により根の生育が抑制され、収量低下となる恐れがある。すでに1月下旬から2月上旬にかけて平年の2倍以上の降雨があった。まとまった雨の後は圃場を巡回し、圃場内で滞水していないか確認を行う。滞水していた場合は、まくら地の排水溝を整備し、長時間の滞水を防ぐ。

2年産麦類生育期間気象グラフ アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値